

学校規模適正化第2期実施計画(案) 古江台小学校保護者説明会

- 1 日時 平成17年12月3日(土)
午前10時～午前11時30分
- 2 場所 古江台小学校 多目的教室
- 3 出席者 古江台小学校PTA会長 橋田 雅弘、保護者 約10名
吹田市教育委員会 理事 北野 敞義
教育企画人権室 室長 京江 民治
学校教育部 総括参事 高橋 一秀
教育企画人権室 参事 川下 貴弘
教育総務課 廣瀬 康彦
- 4 進行
 - (1) 北野理事挨拶
 - (2) 高橋総括参事 配布資料「学校規模の適正化を進めます」「第2期学校規模適正化事業実施計画(案)検討概要」「適正化に向けての4案の評価比較表」に基づき説明
 - (3) 質疑応答
- 5 質疑応答の要旨等
発言者について
古江台小学校保護者・・・発言者の順にアルファベットで表記
教育委員会事務局・・・「教」で表記

発言者A氏

A まず、この比較表を渡された後の、北千里小学校のご父兄の反応はいかがだったのでしょうか。古江台小学校の方は受け入れ側という形ですので、成り行きを見守っている感じじゃないでしょうか。ですから、当事者であられる北千里小学校の保護者のみなさんの意見を尊重されたいかがかなと思います。

教 今回の適正化の1つの目的というのが、青山台小学校の適正化を進めるということで、そのために、現在適正である北千里小学校を、2つにそれぞれ地域に分断をして、校区変更で最終的に小学校がなくなるという案でございます。これについては、昨年も北千里小PTAの特別部と話をして参りましたが、なかなかこの点でのご理解というのがやはり難しい部分がありました。これはやはり、北千里にとっての問題点というのがないわけです。ないのに青山台小学校をなんとかしなければならぬ原因で、北千里が分かれていく。この辺については、北千里だけをお考えになった範囲では、やはり非常に難しいものが去年もありましたし、今回、先週、再度この代替

案で説明会を持たせていただきましたけれども、やはり反応としては難しい反応かなと我々も認識しています。4つの比較表で先週の説明会でお話をさせていただきましたけれども、なかなかご理解を得るところまでは、もう少し時間も必要であるだろうし、ご理解を得ること自体がかなり難しいものではないかと判断はしておりますけれども、ただ、北千里地域全体を見ていただいた場合の、もう少し大局的な視点と言いますか、そういうことで我々も説明をしていく必要がありますし、そういう点でねばり強く説明をさせていただいて、できることなら十分ご理解を得る中で、この案の実施をしていきたいと考えております。

発言者B氏

B 中身について、ご質問したいんですけども、(学校規模の適正化を進めますの)4ページに、適正化を進めるにあたっての対応策と適正化実施後の教育についてということで対応策を記載されていますが、最初にあります交流のところ、3校の連絡会議の実施というのがあるんですが、具体的にはどういうことを考えておられるのか、やるにあたっては、おそらく、18年度、すぐにやっていかないといけないと思うんですが、それをどういうふうにお考えですか。

教 3校の交流については、それぞれ北千里、青山台、古江台の各校長先生方と十分協議をしていく内容だと思うんですが、我々のイメージとしては、北千里小学校と青山台小学校の間で交流授業というのは、冬のスキーでありますとか、観劇会なんかも2校合同でやっておられるということで、今までもそういう交流が北千里と青山台の間はあったようなんですけれども、そういった中身をもう少し深めていきまして、例えば、学級間の交流ができないであろうとか、これは青山台と北千里の間だけですので、新たに今度は北千里と古江台の間でどういう交流ができるかということで、イメージとしては、そういう感じですけども、それをもうちょっと深めた交流と言いますか、そういったものをやっていくためにも、連絡会を設置をしていきたいということを考えております。

教 要は、北千里小学校の方が2つに分かれますので、できれば一緒になったときにも、スムーズに子どもたちが勉強したり、あるいは一緒に学級の活動できるように、子どもたち同士を交流させる中で、今不安を多分持っていますので、お互いに古江台小学校も青山台小学校の子どもと同じように、連携がスムーズにいくようにするために、事前に3校の校長先生方に集まっていただいて、学校間でできる交流の中身について考えていっていただきたいと。今、申しましたように、現在も北千里小学校はしていますけれども、それをもう少し一歩進んだ形での交流をして、子どもたちの統合した後でも、スムーズに学習ができるようにということを考えていっていただこうかなと思っています。

発言者C氏

C 今の話題は、そもそもの学校規模適正化の原点という気がして、要するに、子どもが減ってきて、過小校化になっていく中で、クラス替えができないとか、そういうところで子どもたちの交流がなくなっていることで、いろんな問題が生じているのではないかというので、規模を見直していきましょうかという話になっていると思います。そう考えると、どこを統合するとか廃校にするとかいう以前に、地域であれば、地域の中で交流というのは進めていかなければならないというふうに思いますので、もう少し学校の教育のプログラムとかも大きく関わってくると思うので、もう少し具体的にできるように検討を進めていただきたいと思います。

教 実際には、土曜日が休みになる等、授業時数が減っているわけですがけれども、おそらく、行事の交流であるとか、統合のときに一緒にどんなテーマでこのような取り組みであるとかを考えていけば、きっと子どもたちの交流の場は広がっていくと思いますので、今取り組んでいる学級の時間をできるだけ減らさないように、しかも子どもたちが交流ができて、お互いがよく知り合えるような交流授業を、私どもも一緒に入って考えていきたいと思っています。

C 「学校規模の適正化を進めます」の4ページの4の実施後の教育についてということについて、3と4の関係がよくわからなかったんですけども、これはどういうことなんですか。

教 4は適正化をした後に、現在、例えば、古江台中学校ブロックであれば、合同の研修会などを持たれて、小学校と中学校の連携を強めていく取り組みをされています。実は吹田市はどの中学校ブロックも連携をやっていこうという案を今年出しまして、来年度からは全市的に、もうすでに取り組んでいますけれども、やっていこうとしています。ただ、今一番モデル校になっていますのが、竹見台中学校ブロックです。ここは1小1中です。なかなか小学校と中学校というのは難しいところがあるんですが、小、中学校の間のコーディネートの先生を配置するなどして、本当に連携がうまくいっています。小・中学校それぞれの先生や子どもがお互いの学習体系を知り、一貫した教育という形で、本当に9年間楽しくできています。ただ、今のところ、1つの中学校で2つの小学校が一緒にしているところはないんです。取り組みはされていますけれども。できたら、この北ブロックの方でそういった取り組みができるような条件整備をしていきたい。その中で今子どもたちが抱えている問題、生徒指導の問題、あるいは教育内容の問題についても、9年間ずっとやっていこうということで考えております。

発言者D氏

D では、これから今後どういうふうな形で、この問題を進めていかれるのか、去年は委員会みたいなものをなさっていて、PTAの方々もご出席なさっていたと思うんで

すけれども、これからもそういうのができて、来年またそういうふうな委員会を作って検討されていくのか、どういうふうになるのですか。

教 去年、検討委員会をさせていただいたわけですが、残念ながら、その意見がまとまらなかったというのは、先ほど説明をしたんですが、教育委員会としましては、検討委員会の中で、本当に実りのある議論をしていただけたらと思っていたんですけれども、そういうことよりも、むしろ、非常に悪いというか、議論にならずにむしろ委員さん自身にご迷惑をおかけしたような事象というか、例えば、委員さんの家に夜中に電話がかかってきて、なんであんな意見を言ったのかとか、それから、町で委員さんどうしがすれ違っても、これまではご挨拶するような関係であったんですが、それが対立するような、いがみ合うような形になってしまいましたので、我々として、これ以上検討委員会を続けてしまうと、本当に町のコミュニティを壊してしまうような形になってしまう恐れがありますので、だから今回、今のところ検討委員会を立ち上げるという考え方はありません。それで、こういう説明会を何回か、いろんな関係団体にさせていただいて、それで、いろんなご意見やご要望をお聞きをする中で、地域全体のお考えがどこにあるか、当然、教育委員会としては青山台小学校の過小化をどういうふうにしたら解消できるかということ、十分ご理解をいただく中で、最終、計画を教育委員会としてまとめていきたいと考えております。

発言者 E 氏

E 今の質問に関連するんですけれども、スケジュールが19年4月からということになっているんですけれども、そこにもっていくためのスケジュールがよくわからないのですが、今先ほど、いろんな関係団体に説明してということなんですけれども、具体的にその地域での説明はどうするのかという段取りをどう考えておられるのですか。

教 19年4月ということで目標しております。このためには、19年の1月には、新一年生になられる方に対して、就学通知を出す必要があります。そのためには、仮にこれが実現をいたしましたら、今北千里小学校に通われることになる新一年生については、それぞれの古江台小学校や青山台小学校の就学通知を発送することになりますので、その就学通知を発送するためには、学校というのは条例設置をされていまして、吹田市の条例の中で、それぞれ学校の名称とその位置を制定する条例があるわけなんですけれども、その条例を改廃をいたしまして、北千里小学校を我々の案では廃校にするということですので、廃校にする必要がございます。それで、その廃校にするのが、手続き的には18年の12月の議会で最終、上程をして議会の了承を得る必要があります。それで通れば、その19年の1月に就学通知が発送できるということでございます。それで、12月の議会に提案するためには、当然市長部局の了解、その前に教育委員会の議決といいますが、教育委員会ですまず決めさせていただいて、それで市長部局に教育委員会としてはこういうふうにご決定をしたので、議会上程をしてほ

しいという手続きがあります。それが恐らく1ヶ月前にはそういう手続きは完了しておかないと12月議会に提案は難しいので、11月のどこかで市の決定というか、そういうものをする必要がある。そのためには、先ほども言いましたように、教育委員会でまず決める必要がありますので、教育委員会で決めるためには、やはり各地域がどのようにお考えになっているか、関係者の方がどのようにお考えになっているかということ、説明をして聞いていただくわけです。今回、こういう説明会に入っております、来週に青山台小学校の説明会も開催する予定ですがけれども、特に、北千里小学校は当面の当事者ですので、大変たくさんのお意見をいただいております。それで、説明会は1回で終わりませんので、何回か複数回させていただく予定にしておりますし、このあとそれぞれの地域、連合を中心に説明をさせていただきたいというようなことも、今話しておりますので、そういうところで説明をさせていただき、それでいろんな意見、要するに、賛成か反対かということも当然あるわけですがけれども、いろんな意見を聞く中で教育委員会として最終集約をしていきたいと思っております。

E 受入れ校として気になるのは、教育の環境の整備なんです。条例案の制定と合わせて予算案がどうなるか、具体的に19年4月から適正化されていくのかどうかということも気になりますので、予算案も合わせて、そこも検討されるのだと思いますけれども、それも同じスケジュールとしてやられるということでしょうか。

教 施設関係の整備につきましては、古江台の方は、例えば19年の4月に子どもたちを受け入れるためには、給食施設に余裕がないので、これについては、やはり18年度中にその作業を進めていく、これは実際の工事なのですが、これをしていかなければいけない。同じく青山台の方も受入れ校として、当然必要となって参ります整備があります。これは、来年の12月の議会を通してからということでしたら、時期的には間に合いませんので、基本的なこれらの受入れのための必要となる、基本となる整備については、来年度、18年度の予算で進めていきたいと考えております。当然、今予算のいろんな要求の時期ですがけれども、来年の当初予算にそれらは組み込んでいきたいと考えております。

E ということは、19年度から実施ということを前提にやるという、もう18年度予算から組んでいるということですか。

教 これは解釈がいろいろできると思うんですが、あくまでそれが前提にやっているではないかというふうなお話もあると思うんですが、我々が提案する19年を目標として校区変更をしていきたいということでお話をするためには、最低、受け入れられる体制というのは、その時期で整えておく必要があるだろうと考えておまして、お話をすればそれは前提ではないかと考えておまして、その辺が微妙なところで、それが大前提で話をしているではないかというふうに取りられるかもしれませんが、そういうふう考えています。

E 受入れ側としては、もちろん、スタートすればちゃんと環境が整っているというこ

とは好ましいので、そのための対策をしていただくことは当然なんですけれども、北小さんを尊重するという意味では、進め方に少し、昨年も不満もあったと聞いておりますので、そこのところをそこのないようにはしていただきたいと思います。

発言者 F 氏

F すでに統廃合された学校もあるんですが、そこまでに進めていく中で、今回の場合とまたケースが違うんでしょうか。揉めることもなく統廃合ができたんでしょうか。進めていった結果、統廃合して、良くなった面、悪くなった面とかいろいろ問題はあろうと思うんですけれども、まだ、最近のことでしたらデータの的にはそんなに出ていないかもしれないんですが、参考のために教えていただけませんかでしょうか。

教 統廃合については、第 1 期の適正化事業の中で、竹見台小学校と南竹見台学校、この両校ともに非常に小規模校化が進んでおりまして、これはもう一番始めに取り組む必要があるだろうということで、第 1 期で取り組みました。結果としまして、15 年の 4 月に両校を統合した形で千里たけみ小学校ということで、再スタートしました。この両校につきましては、比較的、地域、保護者のみなさまもこの両校は何とかしないといけないと、あまりにも規模が小さくなり過ぎているという全体的な意識といいましょうか、そういうのもありまして、比較的、両校を統合するという話での大きな抵抗というのはありませんでした。細かい部分では、教育委員会が統合を進めていく中での、その条件整備の話を進める中では、これは地域が自ら統合してほしいという話ではないから、やはり、教育委員会が進めるのであれば、こういう条件は呑んでほしいという、そういうお話はありましたけれども、基本的に大きな反対運動というのはありませんでした。統合することによって、基本的には 1 学年 2 クラスで、残念ながら 1 学年 1 クラスの学年も出たんですけれども、これは全体的に竹見台地域というのは、子どもの数が減っているということで統合はしましたけれども、単学級の発生というのが一部では出ていますけれども、これについてはいろんなソフトの部分で工夫をしてということで、比較的、地域の方では納得をしていただいたのではないかと思います。2 つが隣接している学校ということもありまして、どちらがどちらということでの、そういうのもありませんでしたので、そういう物理的な条件は良かったかなということもあったわけなんですけれども、そんな状況です。

発言者 G 氏

G (検討概要の) 第 2 - 1 案ですが、北千里小学校の方が、多分、分かれるというかそういう部分を問題にされていたと思うんですけれども、第 2 - 1 案が最後まで残ったのに、地域だけを考えると、それがなくなったのはどうなのかなと。もともと、古江台としての地域活動に古江台 3 丁目の方も参加はされていますけれども、他の 1 丁目から 4 丁目の方ほど、そんなに力を入れているようには見えないので、地域が分かれ

るというのを別に意識しなくてもよかったんじゃないかなと。そうしたら、適正化に関することもスムーズに進んだんじゃないかとは思ったんですけど、その点はどうなのかなと思いました。

教 教育委員会でも、提案させていただいております原案（代替案）と第2 - 1案が最後まで残っていたわけですが、どういうふうに考えるかということですが、今回、適正化を実施をさせていただく目標は2つありまして、1つはもちろん、青山台小学校の過小化をなんとか解消したいということと、それから、北千里小学校がずっとたどってきた歴史的な経過があります。要するに、調整校としてスタートして、いつでも、もとの学校に戻れるということでの取り組みをずっと学校も地域もしていただいた。と言いますのは、普通でしたら、例えば古江台小学校で、地域と学校が一緒に行事をするときは、この子どもさんは全部その地域に参加をされますけれども、北千里小学校の場合は、学校全体で地域活動をするようなことはなかったんです。それで、いつも青山台1丁目の方は青山台へ行き、古江台3丁目の方がこちらの方の自治会に来られる。だから、子どもたちは地域活動のときには、分かれて参加をされていた。当然、親も子どももそういう形で動いているわけです。これは他の小学校に比べたらない形なんです。不自然な形なんですけれども、それはもともとそういう調整校でスタートして、いつでももとの地域に戻れるときは戻ろうという、ご配慮を地域でもしていただいて、学校もそういうふうに取り組んできた。それで、それはやはり我々としては不自然だというふうに考えておりますので、今回の適正化の中においては、やはりその部分は解消したいと考えておりますので、第2 - 1案でいきますと、仮に北千里小学校を青山台小学校に統合した場合、古江台3丁目は、子どもは向こうの方（青小）へ、親は古江台の自治会に参加をされていますから、地域は古江台、そうすると、親と子どもの動きがクロスすることになります。これはやはり、子どもたちがずっと古江台の地域の中で育っていくということを考えたら、やはり普通の状態に今戻す方が、子どもたちにとってはいいのではないかと、その方が親と子どもが一体になって動けるということを配慮をしまして、第2 - 1案と原案を比べたら、原案の方がいいのではないかと考えていただいているということです。

G 今、その調整校というのを学校でも地域でも意識してっておっしゃられましたけれども、古江台3丁目一体は新しくマンションが建ちましたが、その新しく来られた方にはそういう意識がなかったんじゃないかということが見受けられます。その辺はどう説明されていますか。

教 みなさんは新しくマンションが建って、そんなことは知らないというふうにももちろんおっしゃられて、そこはよくわかるのですが、それはやはり、みなさん方は北千里小学校は30年の歴史があるとおっしゃるんですけども、それは30年の歴史的経過があるということと理解をしておく必要があるだろうと思います。それで、そのことが現在も解消されていない。そういう子どもたちがそれぞれの小学校の地域活動に

参加をしなければならない。例えば、それぞれの連合の会長さんにお話を聞きますと、北千里小学校の子どもさんも参加をしてくれるんですが、やはり少ない。仮に青山台で地域と学校が一緒になっているんな活動をされた場合に、青山台小学校の子は当然自分のところの校区ですから、参加をしてくるんですけども、北千里小学校の青山台1丁目の子はやはり、参加も少ないし、どちらかと言えば遠慮があるのかなという感想もお持ちですので、その部分はやはりおかしいのではないかと。だから、確かに新しく入ってこられた方は、そんな調整校のことは知らないとおっしゃいますけど、ここに古くから住んでおられる方もみんなそうですし、吹田の他の地域の方も、なぜか、それは調整校だからそれを解消するのが普通ではないかというふうに捉えておられるの方が、我々としてはそういう意見を聞く、その方が自然ではないかと思っ

発言者H氏

H 北千里の方は、感触としては青山台に全部統合するのと、分かれてしまうのと、どちらの方が感触がいいんですか。

教 全体のご意見がまとまっているということではないので、どちらがというのはなかなか言えないんですが、はっきりしているのは、学校をなくしてほしくないというのがまず第一番にありまして、北千里小学校をそのまま残してほしいと。これは、心情的に我々としてもよく理解できることですが、考え方が廃校にしてほしくないというところから発していますので、そういう考え方をされます。だから、青山台小に別に行きたくないですし、このまま残れるのであれば残りたいということで、今のところは固執されています。

H それは親としての本音だと思うんです。行政から見ますと、この辺は少ないから子どもたちのために、増やしてやろうじゃないかという、私も関わりがなければきっと同じ校区に2つの学校があるなんて、不自然と思うんですけども、現に19年度になりますと、今私の子どもが4年生ですので、6年生になったときに新しくお友達が入って来られるんですが、たった1年間だけこちらの小学校に来て卒業するという、その子どもさんとその親御さんのことを考えれば、親としては、複雑な思いなので安易にどうぞやってくださいということは言えないんです。血のかよった行政をしていただくというのは、本当にお互いのためだとも思いますので、その辺だけ配慮していただけたらと思います。

教 古江台小学校だけではなく、特に青山台小学校のご父兄の方も、我々の問題をなんとか解決はしてほしいけれども、それを進めると北千里小学校の廃校につながるということで、意見も言いたいけれども、なかなか言えないというのがあるというのはおっしゃっておりまして、その辺は心情的な部分としては、我々もよく理解できるところです。ただ、教育委員会としては、教育というのは、みなさん同じような条件の中

で、教育環境の中で受けていただきたいというのが、我々行政を進める立場ですので、だから、青山台で非常に人数が少なく、もちろん人数が少ないということだけでは、いろんな面、もちろん良い面も悪い面もあるわけですが、今のその6クラスになる可能性のある教育環境が、これは審議会からもご意見をいただいておりますし、やはり子どもたちの教育環境が、他の小学校の校区の方と比べたら、やはり悪いと判断しておりますので、そこを手をつけずに心情だけ理解して、置いておくというのも、行政の立場としては許されないもので、同じような教育環境、平等な教育を受けてもらいたいというのが立場ですので、だから、行政の立場をご理解いただかないと、なかなかご理解を得られないというふうには思っております。だから、そのためにはできるだけ意見を交換させていただいて、我々の趣旨をご理解いただくという努力をさせていただきますと思っています。

発言者 I 氏

I 今の続きなんですが、ご理解をいただいて、進めていかれるということだと思いますが、どうしても、それでも北小さんの反対意見が強いということがあると思います。ただ、先ほど示されたそのスケジュールから言うと、恐らく、来年の夏ぐらいまでに一定の判断が出ていないと先には行けない状況だと思います。それで、そこをどう進めていかれるのか、もちろん我々にとっては問題ないですので、その辺をどうお考えになっておられるのか、なにがなんでもやりきるといふふう思われているのか、どうかなのかを教えてくださいたいと思います。

教 今回、19年度を目標にということで掲げておりますけれども、当然これは目標ということでございますし、この実施計画についても、計画ではなくて、案ということで出しておりますので、我々行政の立場から言えば、進めたいということでございますし、地域の、特に北千里の父兄からすれば、時間をかけてとか、もっと私たちの意見を聞いてというようなことになろうかと思えます。これは話し合いを進めていくしか方法がないわけで、何回かそういう話をさせていただく中で、もうお互いの意見が出尽くした、これ以上話をしても進展もないという時点まで、やはり説明をしないといけないと思えますし、その他のこれをやることによって影響を受ける地域のみなさん方の反応と伺いますか、例えば、古江台小のPTAのみなさんが、そんなことは受け入れられないというようなことにもしなりましたら、我々としても難しくなるだろうと思えますし、だから、いろんな関係者に説明する中で、みなさん方のご意向も我々としては把握をしていかなければならない。やはり地域全体の総意、これをつかむことは非常に難しいかもしれませんが、いろんな場で説明をする中でみなさん方の考え方がどういうふうになっているかということも、我々が最終決めるときに、教育委員さんに説明をする必要があるわけですが、今日のこういう説明会の中で議事録も残しまして、その議事録もきちっと提示をする中で、やはり地域の総意が

どういうところにあるかということ、最終これは教育委員会が自らの責務で決めて、それで実施をしていくということです。それでご理解を得たいと思っております。

I やるということを前提にするのは非常に問題があるんですけども、1つ心配しているのは、先ほどもあったんですが、検討委員会は特に考えられていないということですが、もともと、竹見台の例でいうと、検討委員会を通じていろいろな施設の改善の要望とかを挙げられていたということなので、仮に、進んでいく中で、我々としても、もし統廃合が進んで児童数が増えれば、こういう改善もしてもらいたいという要望も保護者の中にあると思うんです。その意見を吸上げる場がなくなるということとか、そういうのは持ってほしいと私自身は思っているんで、そういう機会と、それを考えられる十分な期間を作っていただきたいと思っております。ぎりぎりまでどうかということで検討されて、もう時間切れだからスタートします。しかし、みなさんの意見をあまり取り入れることができませんでしたということになると、非常に問題があるので、どう進めていくかということをお教えいただきたいと思っております。

教 南竹見台、竹見台小では検討委員会を設置をさせていただいて進めてきたわけなんですけど、こういう学校統廃合で検討委員会を立ち上げなければならないというふうにはなっておりません。例えば、摂津市でも昨日新聞発表がありましたけれども、学校統廃合をされます。それは別に、検討委員会を立ち上げてやってこられたのではなく、いろんな説明会をする中で意見をまとめられたということです。第1期のときに検討委員会をしてうまくいったと思っているんですが、それはみなさんが解消をしたい、やはり竹見台と南竹見台はおかしいと、今の時代にこういう形はあり得ないというのが、地域の総意としてあって、検討委員会を立ち上げたときには、新しい小学校を造っていくということの大きな目標については異論がなかった。それで、検討委員会の中で進めるにあたっては、こういう条件があるけれども、どうかという条件的な場が検討委員会であったらと思います。それで、去年は検討委員会を立ち上げましたが、総意はバラバラで、いろんな意見、賛成もあれば反対もあるということの中で進みましたので、意見がまとまらなかったということでございます。教育委員会としても、みなさんのご意見が同じ方向に向かうということでしたら、検討委員会を立ち上げて、いろんな条件整備をするということについてはもちろんやぶさかではございませんし、仮に検討委員会がなかったら、これから統廃合していく中で、古江台は古江台としての要望がありましたら、それはそのことでどんどん言っていただきましたら、もちろん非常に財政難の時期ですので、安易にお答えを出すことは難しいかもしれませんが、学校の環境というのは別に統廃合を契機に条件闘争をするということではございませんので、やはり不備な点は不備な点としてPTAとして、もしあるのであればどんどん挙げていただければ、それをどう汲み取っていくかということは、この統廃合とは関係なくやれるというふうに思います。だから、1つはみなさんが方の地域の総意というのは、同じ方向に向いているということが見極められれば、別段、

19年以降であっても検討委員会を立ち上げて、いろんな条件の話はすることは可能だと思います。

I 私が申し上げているのは、検討委員会をつくる、つくらないということをおっしゃいましたが、意見を言える場であるとか、期間であるとかを作っていただきたい。それで、気になっているのは、なかなか統廃合ということの方向性が見えないと、我々としてもそれを前提に、今こうやってほしい、ああやってほしいということはなかなか意見を出しにくいと思うんです。決まれば、そうだからこうしてほしいというのを出し易いと思うんです。そのところの期間と、言える場を設けていただきたいという要望だけなんです。もちろん、学校の環境のことですから、統廃合があろうがなかろうが、要望を申し上げたいと思いますけれども、この統廃合に関連して、改善していただきたいということに関しての場は作っていただきたいというふうに思います。今日は出席者が少ないですが、ご都合があってこれられない方もおられると思いますので、私の個人的な意見ですけれども、できれば、保護者の方もいろんな意見をもっておられると思いますので、そういう意見を教育委員会にお示しする機会も与えていただいて、検討につなげていただきたいと思います。よろしくお願いします。

教 今おっしゃいましたように、こういう場の設定でなくても、例えば、PTAの役員さんがみなさん方のご意見をおまとめになって、それでお話をするという方法もありますし、それ以外に、要望書のようなものを出されて、それに教育委員会が答えていくということもありますし、今日は全員の方がご参加をされておられませんので、これからいろんなご意見が出ましたら、我々とPTAのみなさんと連携を取らせていただいて、もし必要であればこういう場がありましたら、当然質疑もしますし、それ以外の方法で要請がありましたら、お答えはしていきたいと思います。